

## 1人1台端末の利活用に係る計画

### 1 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

予測が困難な変化の激しい社会においては、生きて働く「知識及び技能」はもとより、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育むことが必要である。

このため、本町では、児童生徒の発達段階を踏まえつつ、これまでの対面の教育とICTを取り入れた教育、紙とデジタルの双方の良さを取り入れた個別最適化された学び、遠隔地や他校との交流を含め多様性を生かす協働的な学び、新たな価値を創造する深まりのある探究的な学びを実現するとともに、将来に生かせる情報活用能力を育成する。

### 2 GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想の実現とコロナ禍においても学びを保障するため、令和2年度に1人1台端末や学習系ネットワークの整備等を行った。

また、整備した端末による学びの変革のため、ICT支援員の配置や教職員に向けたICT活用研修などを通して、ICTを活用した教員の指導力向上や情報スキル・モラル教育の充実に努めた。

一方、ICT活用の実態や指導力については、学校間や教員間に差が生じており、全ての児童生徒に利用機会を提供するため、引き続きICT活用指導力の向上を図る必要がある。

### 3 1人1台端末の活用方策

#### (1) 1人1台端末の積極的活用

研修や実践事例の共有により、教員のICT活用指導力のさらなる向上を図るとともに、機器等の操作や各種ソフトウェア活用のための相談窓口の設置等により、1人1台端末の活用を促進する。

#### (2) 個別最適・協働的な学びの充実

AI型デジタルドリル等の利用による個別最適な学びや、思考ツール等の活用による協働的な学びを促進し、学びの変革のさらなる実現を目指す。

#### (3) 学びの保障

当町では様々な教育施策のもと、教職員らが児童生徒を取り巻く課題の解決に取り組んできたが、不登校の出現率が県や国を大きく上回る結果が出ていることから、個に応じた適切な支援をより早期に実施する支援体制を強化することを目的に、学校不適應児童生徒支援システムをこどもデータ連携実証事業を通して導入した。現在、各学校において、不登校や体調不良により欠席した児童生徒に対しては、本人や家庭の状況を十分に踏まえながら、オンライン授業等を含めた個別の対応をしている。今後も端末を効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な状況にある児童生徒に学びの環境を提供するため、ICTを活用した支援を実施していく。